



令和4年9月10日（土）

第6回近世部会を開催しました

第6回近世部会では、各委員が作成した資料編に掲載する資料の候補リストをもとに、進捗状況が報告され、あわせて重複する資料をどの章で扱うかといった調整や、不足している資料についての情報交換などを行いました。また、掲載予定資料の内容から、節の名称を変更したり、章立てに関する検討も行われました。

『新編遠野市史 資料編 近世』は令和6年度の刊行を予定しており、今年度末までに粗原稿を完成させる予定です。今後は粗原稿の完成に向けて、筆耕や翻刻作業が本格化していきます。

翌11日は、文献資料調査と巡見にわかれて活動し、巡見では小友町の金山跡や塚の根の一里塚、迷岡の一里塚などを巡りました。



近世に限らず、新発見資料や近年の研究成果により知られざる遠野の姿が見えてきました。今後の市史の刊行が待ち遠しいですね。



▲会議の様子



▲新収蔵資料を閲覧する委員ら



令和4年9月24日（土）

第6回近現代部会を開催しました

第6回近現代部会では、各委員からの調査状況の報告の後、主に資料編の編目構成案と統計資料の取扱いについて協議が行われました。編目構成案は、これまでの調査結果をもとに部会長が中心となって再編成したもので、近現代の遠野の時代像にあわせた時代区分、章立てとなっています。委員らは今後、この章立てをもとに資料編に掲載する資料の検討と、資料の量や内容にあわせた編目構成の調整を行っていくことになりました。また、近現代資料においては特に個人情報や差別用語の取扱いについて配慮が必要なことから、早めに協議を行ったほうがよいとの意見があり、次回他市町村史の凡例を参考に協議を行う予定です。

翌25日は、希望する委員で上郷町を中心に巡見を行い、戦国時代末期に金山開発や佐比内地区の開発を行ったとされる近江弥右衛門の墓や、佐比内溜池、熊野神社などを巡りました。



▲会議の様子



▲近江弥右衛門の墓

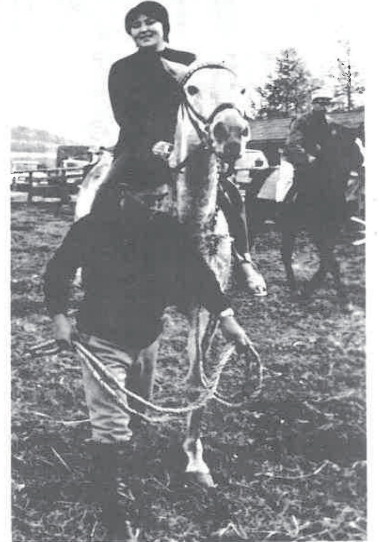


遠野色がもたらされた 岩手の ふるさとまつり

はなおり
トナリ、トナリ
手まばきも、あざやかに
すばらしいのを飾りあ
げる。
(センターホール)



乗馬コーナー
女性が乗ったのはこの人が
初めて……美しいひとと
乗馬体験は遠野まつり



観光キョウフレス(ついでに文句)の
優秀作、高層が時々、民衆がささぐ、
みなの遠野、とつたわけています。
遠野の民を地元市民はちん、全国
の人たに知つてもあつて、手ふる
さまじり、ついでに、十月二十八
日から十月三十日、市民センターを中
心に、遠野市民センターの中心に
つた、遠野まつり

くふうした
催しを示す



珍しいだちんづけ

郷土芸能パレード
しほのほか、田福
馬、神楽、産舞、
みま、踊り、など
つた。(駅前通り)



うまいもの横
カネリ、だんご、け
いらん、いご、あめ
どの郷土色豊かな食
物が人気をよんだ
(市民センター前広場)

昭和47年12月
広報とおのから

今年、遠野市最大のまつりである「日本のふるさと遠野まつり」が50周年を迎え、コロナ禍による中止を挟んで3年ぶりに開催されました。半世紀におよぶ歴史を持つ遠野まつりですが、はじめは「岩手のふるさとまつり」という名称で昭和47年(1972)10月28～30日の3日間、前年に開設された遠野市民センターを中心に行われました。まつり開催の契機となったのは、昭和43年に行われた明治百年記念式典です。記念行事として行われた郷土芸能大会が好評を博し、「年に一度の市民参加行事にするべき」という市民の声をを受けて、翌年夏に「とおの夏まつり」を開催し、ここで行われた郷土芸能まつりも前年以上に盛り上がりました。こうして市内の郷土芸能が一同に会する場として、昭和48年の「日本のふるさと遠野まつり」からは遠野郷八幡宮の例祭にあわせて開催されるようになりました。当時の記事を読むと、郷土芸能の披露のほか乗馬体験や駄賃づけの再現、柳田国男と佐々木喜善に関する展示など、遠野らしさ溢れる多彩な催しが繰り広げられ、多くの人がまつりを楽しんだようです。



絵馬や権現展に人気集まる(市民センター中ホール)

日本のふるさと遠野まつり

日本のふるさと「遠野まつり」が盛況に終りました。九月十三日、婦人会のまぬけ節パレードが始まり、十六日まで行われました。十四日は市民センター大ホールで各地区の郷土芸能十五団体が出演して、民俗芸能まわり舞台、十五日の鎮守の祭りには、八幡神社に約一万人が集まりにぎわかし盛り上げて行きます。

人気を呼んだ民俗展

広報とおの

昭和48年10月
広報とおのから

当時はまだ博物館がなかったもので、こうした資料を見る機会は珍しかったですね。

